

「マイナスは必ずプラスになる」

～真実に向き合う力を養う～

「地震の後に火があったが、火の中にも主はおられなかった。火の後に静かな細かい声が聞えた。」
列王紀上19章10節

「静まって (STOP!)、わたしこそ神であることを知れ。わたしはもろもろの国民のうちにあがめられ、全地にあがめられる。」
詩篇46篇10節

「神の子らよ、主に帰せよ、栄光と力を主に帰せよ。」
詩篇29篇1節

平昌冬季五輪が閉幕する。小平選手は良いお手本を示してくれました。

「スピードスケートの小平奈緒がレースを終え、リンクをゆっくりと回る。客席から大きな歓声があがる。小平は指を立てて口にあてた。『静かに！ 次のレースがあるから』と言うかのように。その瞬間の写真が韓国の新聞に添えられていたようだ。次に控えていた韓国の李サンファは、五輪での3連覇が期待されていた。小平のしぐさは李への気配りのように見えた。結果は小平が李にまさった。泣き崩れそうになった李を小平が抱擁したことも韓国メディアは手厚く伝えた。国際大会で何度も戦うライバルは、やがて友人になった。李は語っている。『彼女が韓国の家に遊びにきたことがあった。私が日本へ行けば、いつも面倒を見てくれる。特別な友人だ』。2人で一緒に走ってきた、とも。先日は羽生結弦がスペインのライバルと抱き合う場面もあった。同じコーチのもとで練習した仲だという。競い合い、励まし合い、尊敬し合える友達がいる。そうありたいと願うのは、もちろん競技の世界に限らない。」(大和の週報より)

小平選手の姿から、何が一体大切なのか？ 記録が重要なのももちろんだが、最も大切なのは、スポーツマンシップを磨き合う場としてのオリンピック。ロシア出身のフィギュア選手たちも活躍したが、複雑な感覚になる。

私たちの人生、信仰とは何のためなのか？と問われたら、あなたはどのようにお答えになるでしょうか？ 人生に理不尽と思えるような出来事と遭遇したときに、その真価が問われます。

「いつまでも残るものは、信仰と希望と愛です。その中で最も大いなるものは愛です。」とパウロが第一コリント13章で語りましたが、その人物は初めは、ステパノを殺し、クリスチャンたちを次々に滅ぼして行った存在でした。しかし、その人物が天に昇られたはずのイエス様にお会いした時に、それまでの自分の生き方、考え方を変えざるを得ない状況になりました。どうやっても越えることができない壁にぶつかってしまったのです。自分自身が自信を持って否定し、打ち消してきた世界が実は、大いなる真実であったことを認めざるを得なかったからです。真剣に人生を生きようとする人は必ず挫折を経験します。それでも、決してあきらめることなく、真実を求め続けようとする姿勢がパウロにはあったのです。